

ふくおか経済

FUKUKEI
vol.419



新しい時代へ
おかげさまで40周年

特集

福岡県幹部人事
わが社自慢の福利厚生

注目企業

安川電機
アイ・ケイ・ケイホールディングス
筑水キャニコム

PR企画

メイド



ふくおか・九州

2023年盛夏 誌上ごあいさつ

表紙の人

小宅祥広

博多大丸社長

歴史と伝統を踏まえ、革新示す百貨店に

特集
Feature Art

“脱コロナ”で8割が増収も重み増すコスト高

福岡の主要企業90社 決算概況

3カ年の新中期経営計画が始動

S^{セレクト}elect



JR九州システムソリューションズ(株)
香月 裕司 社長

香月 裕司
社長

炭化水素冷媒ガスの販売開始

「健康経営優良法人2023」の大規模法人部門に認定されるなど、社外からも高い評価を受けているものの、23年度も人事賃金制度を改正するなどE×X向上をさらに進める姿勢を見せる。

JR九州グループのIT戦略を担うJR九州システムソリューションズ(株)(JRSS)では、今期から3カ年の新中期経営計画が始動。香月裕司社長は「前中期計画で目標に掲げた売上高40億円、営業利益1億円、JR九州グループ外売上高5億円を達成。今中期計画最終年度までに売上高75億円、営業利益3億円、グループ外売上高20億円を目指し、さらなる成長を遂げたい」と意気込む。

新中期計画では、危機直面時の対応力、適応力を備えた「レジリエント・カンパニー」を目指し、「生産性」「外販力」「品質」の向上とともに、従業員満足度を高めるための「従業員体験(E×X)」向上を特に強化していく。これまでJRQSSでは残業時間月平均20時間から5・8時間に削減したことや、時間休制度の導入、資格手当の充実などを実現。昨年12月に福岡市主催の「エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード」受賞、今年3月に

一方、成長戦略のカギを握る外販力向上の取り組みも促進。M&Aの推進や、福岡都市圏中心に6教室を運営する幼児〜中学生を対象にしたロボットプログラミング教室「プログラボ」の拡大などに加え、今年4月から、自然冷媒ガス販売などのJLA(株)(仙台市、大津光輝社長)と炭化水素冷媒ガスに関する販売契約を結んだ。経緯について香月社長は「EC事業部の取り扱い商材の充実や、企業や団体に向けてESG推進を支援したかった」と説明する。

炭化水素冷媒ガスとは、従来から自然界に存在するプロパンやイソブタンなどの物質を冷媒とするもの。可燃性を伴うが、オゾン層を破壊せず、温室効果ガス削減にも繋がるため、近年は安全性を高めながら実用化が進んでいる。現在、日本の冷蔵、冷凍、空調機器などで使用されている冷媒ガスのほとんどは温室効果の高い代替フロンガスだが、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体

としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言。今後、日本でも代替フロンガスの販売が停止され、炭化水素冷媒ガスなどへの移行が予想されるため、「将来的にかなりの需要が見込まれる」という。

今回JRQSSでは、炭化水素冷媒ガスのメーカー、オーストラリアのHYC hill(ハイチル)社の日本国内総代理店を務めるJLA社との契約締結によって、九州エリアの法人、団体に加え、全国のJRや私鉄、および関係会社など鉄道各社への独占販売権を獲得。公共施設や店舗、工場などで既設されている業務用空調、冷蔵庫、冷凍機で使用されている代替フロンガスを炭化水素冷媒ガスに入れ替えることを提案していく。温室効果ガス削減はもちろん、エネルギー効率がいため、電気代の削減や設備の寿命アップにも繋がるという、試験的に導入したJR九州吉塚データセンターでは「エアコン1台の電流値が最大36%削減した」という。JLA社とは冷蔵、冷凍、空調機器への冷媒ガス組み込みの独占販売契約も結んでおり、将来的に電機、空調機器メーカーなどと共同で、炭化水素冷媒ガスを組み込んだ製品の開発、販売にも携わっていく計画もある。

そのほか、「法人、自治体のDX推進を支援するコンサルティング部門の創設も検討している」など今中期計画期間中も新事業、新領域に果敢に挑戦する構えだ。

(取材・池田大典)

(かつき・ゆうじ)

北九州市出身。1967年4月19日生まれの56歳。九州大学工学部卒。趣味は旅行

【所在地】〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-79 【設立】2003年3月 【資本金】9,700万円 【売上高】49億円(2023年3月期) 【従業員】232人
【事業内容】基幹システムなどの開発、運用管理 【TEL】092-626-7552